

令和7年12月19日

天草市長 馬場 昭治 様

天草市総合政策審議会

会長 玉村 雅敏

第3次天草市総合計画後期基本計画の策定について（答申）

令和7年3月19日付け、天政第251号にて諮問がありました第3次天草市総合計画後期基本計画の策定について、慎重に審議を重ね策定しましたので、下記の意見を附して答申します。

記

- 1 第3次天草市総合計画基本構想並びに今回答申する後期基本計画は、令和11年度のまちの将来像と5つの理念・ありたい姿を掲げ、市民と行政が共に創り上げる、まちづくりの最も基本となる本市の最上位計画です。行政による未来へ向けた試行錯誤や挑戦を進めること、また、計画の内容をより多くの市民に周知し、理解を深めていただくことが肝要です。市民への周知にも最善を尽くすとともに、計画に掲げる取組について、市民、行政、そのほか多様な主体が相互に共感し、協働し、共創することを通じて、将来像の実現に向けた取組を進めることを求めます。
- 2 人口減少、公共施設の老朽化、財源の縮小化など、行政経営における構造的な制約が強まる中、従来手法だけでは、複雑化する市民ニーズへの対応や、地域の活力、生活機能を維持することが困難になってきています。このため、短期的・中期的に取り組むべき具体的な課題を設定して各種の施策に取り組みつつ、まちの将来を見据えた長期的な視点を持ち、柔軟な発想や仕組み・体制の転換を前提とした、新たな市政運営が不可欠です。本計画は、こうした認識を踏まえて、市の体制づくりの方向性を適切に示しています。今後は、本計画に掲げた取組の着実な推進を期待します。

- 3 前期基本計画のもとで取り組んだ自己評価・内部評価・外部評価による評価検証の仕組みと役割の継続と深化を進めていくこと、行政システムや計画群の連動性を向上させることなど、行政経営のトータルシステムの実効性をより向上させることを求めます。特に、総合計画の実現へ向けて、ロジックモデルに基づき「指標の改善」「やり方の改善」「やることの改善」を着実に進め、必要に応じて計画の見直し・改定を行うことを求めます。あわせて、策定プロセス（テーマ別部会、庁内対話、根拠に基づく現状分析と中期課題設定）の継承・発展を図り、分野横断的な議論を一層深化させることを求めます。
  
- 4 市役所職員の力は市のあり方に大きく影響します。職員は行政と地域における重要な財産であり、その力を高めていくことが重要です。社会における人材の流動性が高まる中でも、「天草市で働きたい」「ここなら挑戦できる」と感じられる魅力ある組織づくりに取り組まれることを強く求めます。あわせて、職員一人ひとりが主体的に学び、市の将来について考え、挑戦できる風土と仕組みを構築することを求めます。さらに、各種の調査研究や実証、多世代による議論を重ね、第4次天草市総合計画へ確実につなげることで、市政の持続的な安定と成長を目指すことを求めます。

以上